

「海の男とハニカミ・プラン」
～浜辺の出会いを応援します～

山口県漁協青壮年部連合会防府支部
村上幹男

1. 地域の概要

下松市から山陽小野田市までの地域は、山口県の内海中東部に位置し、県の主要な都市と主な商工業地帯を含む、瀬戸内海に面した比較的気候が温暖な地域である。

2 漁業の概要

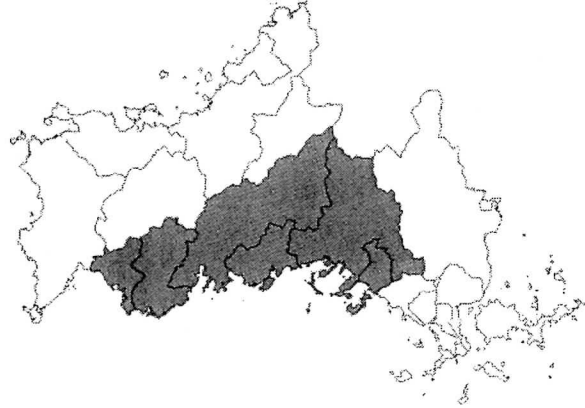
地域の主な漁業種類は、遠浅の地先漁場から瀬戸内海沿岸を主漁場とした小型底曳網、刺網、潜水器漁業、定置網、魚類養殖及びノリ養殖を主に営んでいる。

3 グループの組織と運営

山口県漁協青壮年部連合会防府支部（以下、「支部」という。）は、昭和52年に設立し、山口県中西部に位置する下松市から山陽小野田市の6市にまたがる10の漁協支店青壮年部による連合会で、総部員数は180名である。

流通、販売に興味を持って取り組みを始めた「きらら物産フェア（地場産業フェア）」での活魚販売は、平成12年度から8年間続けており、調理方法のPRや地元産魚介類の消費拡大、地産地消の推進などともに、部員相互の交流を深める場ともなっている。

山口県漁青連防府支部



きらら物産フェアでの活動

・ガザミ、クルマエビ、シャコなどの活魚販売の実施



4. 実践活動課題選定の動機

沖での作業、夜間の作業が生活のほとんどを占める私たち漁業者にとって、他の人と広く出会う機会は少ない。特に、独身の漁業後継者にとって、独身の若い女性と知り合う機会は極端に少なくなっている。「浜辺のにぎわい支援事業」をきっかけとして、支部の役員が一丸となって、独身男性部員のために、女性との出会いの場を提供するイベントを実施することとした。

5. 実践活動状況及び成果（または効果）

(1) イベント実施までの活動経過

平成18年度に、都市住民と漁村との交流を目的とした「浜のにぎわい支援事業」で、支部に10万円の予算が付くことになった。同年6月の役員会で、こういった形で実施するかを協議したところ、「漁師の花嫁探し」の形でやってみようかの提案があった。

防府支部の独身男性のために独身女性との出会いの場を提供する企画である。役員全員一致でイベントを実施することが決定した。

まずは、予算の確保が課題となった。事業の予算に、支部の予算も加えて実施することにした。県1漁協となってカットされた支部への助成金を補うため、関係共励会に助成金の増額を依頼に行くことも決めた。

出会いのイベントは女性参加者集めが課題である。

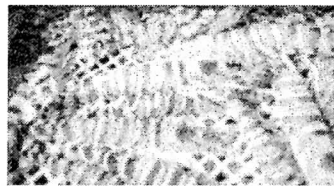
漁師の活躍の場である海にまつわるイベントで、さらに募集の「目玉」が必要であった。

その時、秋穂で有名な「世界エビ狩り選手権」をやってみようかのアイデアがでた。天然クルマエビを使った男女ペア2人3脚でのエビ狩り選手権をメインイベントとして、女性参加者を募集することにした。

イベントの内容を検討

秋穂で開催される

「世界エビ狩り選手権」



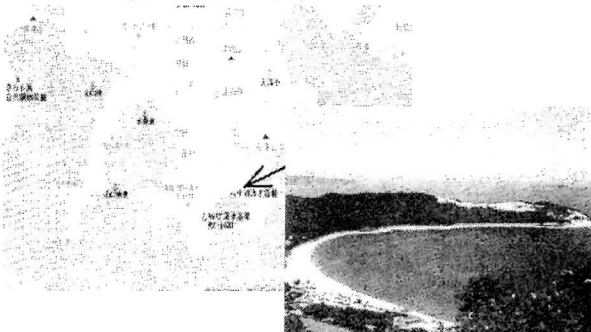
秋穂支店青壮年部が準備を担当

→男女2人3脚のエビ狩り選手権を
メインイベントに！

イベント名も、「漁師のお嫁さん募集」といったストレートな形ではなく、若い女性の受けを狙って、「海の男とハニカミ・プラン」とした。

広く参加者を募るため、タウン情報誌に広告を掲載したり、県内の独身女性が多く働いていそうな職場へ募集パンフレットを送付した。

海の男とハニカミ・プラン！ 秋穂中道海浴場で 9月9日に！



パンフレットの配布

独身女性のたくさん働いている職場
→県内の病院や保育園などへパンフレットの送付



7月に入ってから、山口県が少子化対策として打ち出した事業、「若者の出会い応援事業」があることがわかった。出会いの機会が少ない若者のために実施するイベントを公募しており、合格すれば補助金が付く事業で、さっそく応募した。

私たちが自信を持って言える点は、男性が地元の漁業者であり、カップルができれば、確実に山口県に定着する点である。県の少子化対策と言う点では、私たちの企画が一番確実だと思われた。そういった点も評価されたのか、応募総数55企画から、1次審査、2次審査を経て、最終的に選ばれた11企画の中の1つとして、30万円の予算が付いた。自己負担金なども合わせてイベントの事業費50万円を確保した。

最終的に女性参加者は23名が集まった。男性は、支部に加入していない支店などにも呼びかけ、28名が集まった。イベントの運営を手伝うスタッフは、役員や各青壮年部の既婚者とその奥さん達で、総勢26名がボランティアで参加してくれることになった。

若者の出会い応援事業
山口県こども未来課の平成18年度事業

- ・少子化対策のため、若者の出会いのイベントに支援
- ・応募総数 55企画
- ・一次審査で 22企画
- ・二次審査は面接

カップルが成立すれば、確実に山口県に定着

↓

合格！ 30万円の補助金ゲット！！

(2) イベント実施

平成18年9月9日、「海の男とハニカミ・プラン」が開催された。

漁業者である男性陣は、男同士で集まると沖の話を始めてしまうので、女性と交流するゲームをたくさん取り入れた。お昼のバーベキューは、自分たちが獲ってきた瀬戸内の旬の魚を使った。バーベキューの前に、女性のために魚のさばき方教室を行った。



魚のさばき方教室



メインイベントの2人3脚エビ狩り選手権は、くじで男女ペアを作り囲い網の中のクルマエビをたくさん獲ったペアが勝ちとした。漁師である男性の一番の見せ所であるが、40匹以上獲ったペアもあれば、わずか2匹というペアもあったが全員笑顔で楽しんでいた。

2人3脚エビ狩り選手権



告白タイムでは、人前で告白する形はさけたいと考え、本命カードとお友達カードという2種類のカードを用意した。

それぞれのカードには、気に入った人の名前と自分の名前と連絡先を記入し、スタッフが回収して、相手に届けるというシステムにした。

結果は、残念ながら本命カード同士のカップルは成立しなかったが、お友達カードはたくさんの人の間で行き交った。

そして、嬉しいことに、お友達カードから始まって、現在も交際を続けているカップルが2組あり、この内の1組は、

平成19年12月に結婚入籍した。「海の男とハニカミ・プラン」が取り持ったゴールイン第1号である。結果から見れば、大成功と言えるのではないか。

告白タイム

• 本命カード

- 一番良いと思った人の名前を書く
- 1枚だけ

• お友達カード

- もう少し話してみたいと思う人の名前を書く
- 何枚でもOK

(3)今年度（第2回目）の活動経過

平成19年5月の総会で、今年もイベントをやるかどうか協議した。県の事業は昨年限りで終了しており、支部で相当の負担が必要であった。それでも、部員の多くからは、浜の活性化のためにぜひやるべきだとの声が上がリ、実施することにした。可能な限り組合の支援をお願いしていくことになり、各青壮年部が、それぞれの支店にお願いにまわり、いろいろな援助を得た。経費も節約して実施することにした。

宣伝広告は、前回と同額の予算で、タウン情報誌に加え、折込広告やフリーペーパーにも掲載した。市役所へもお願いして、市広報に募集広告を載せていただいた。

女性参加者は予定の25名をはるかに超えて、40名の応募があった。急きよ、男性陣を増やして対応することにして、防府支部だけでなく、県内の他の支部にも声をかけ、4支部から10名が参加してくれることになった。参加者が、男性38名、女性38名、運営を手伝うスタッフ36名、総勢で112名が参加する一大イベントになった。

(4)今年度（第2回目）のイベント実施

平成19年9月8日、第2回目の「海の男とハニカミ・プラン」が開催された。予定よりかなり多い人数でのイベント運営に少し不安を覚えたが、去年の経験とスタッフの強力なサポートもあってイベントはうまく進化した。前回の意見も反映して、自己紹介の時間やフリータイムの時間を増やした。その結果、今回は本命カード同士のカップルが4組も成立した。また、前回のようにお友達カードからの発展も期待できると思う。





6. 波及効果

今年度、他の支部の青壮年部員も参加したことで、全県的にイベントをしてはどうかといった意見も出てきている。支部としては、「海の男とハニカミ・プラン」を県漁青連主催の事業として全県的に実施することを提案していきたい。花嫁捜しだけでなく、他の支部の青壮年部間の交流も図ることができる。

また、今回の企画に参加した他の支部や青壮年部で、自分たちの地元でも、同様のイベントを実施する計画が出てきていると聞いている。

他の支部や青壮年部には、出会いのイベントを実施する際には、「海の男とハニカミ・プラン」のノウハウについて、アドバイスできるので尋ねて欲しいと伝えている。

7. 今後の課題や計画と問題点

2回目のイベントでの反省点は、規模が大きくなりすぎると、個別の交流が図りにくい点と、スタッフのケアが行き届かない点である。規模に応じたスタッフの確保が重要となる。また、女性参加者にエビ狩りだけが目的の人が増えたような感じであった。しかし、それでも出会いは出会いであり、その機会を増やすことが大事だと考えている。

「海の男とハニカミ・プラン」が成功した大きな理由は、防府支部の役員全員が一致して、やると決めた事、また、役員全員がスタッフとして働くなど、団結して協力できたことだと考える。こういった活動を、各浜の青壮年部が主体となって実施していけば、青壮年部活動の活性化、ひいては漁村の活性化につながっていくと考える。漁青連防府支部では、今後も漁村活性化につながる活動に取り組んでいこうと考えている。